

2019年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園幼稚園】

1 めざす幼稚園像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期方針・中期行動計画

- 1 ドン・ボスコの精神によるカトリック学校を維持する
 - (A) 礼拝の教えと、創立者ドン・ボスコとマリア・マザレロの生き方を学ぶための研修の場を設定する
 - (B) アシステンツァの理解を深め、マリア様、イエス様の心に倣い実践する
- 2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する
 - (A) 安全教育を実践する
 - (B) 安全・安心の為の教育環境整備を行う
- 3 『良心的な人間、よき社会人』を育成する教職員』を育成する
 - (A) 教職員の資質向上を目指した研修を実施する
 - (B) 園児に関する情報の共有を図る
- 4 校種間、兄妹校間の連携を強化する
 - (A) 他校種の児童・生徒との交流の機会を広く設ける
- 5 自然に挨拶が交わせる学園にする
 - (A) 教職員間で挨拶を励行する
 - (B) 園児に対し、挨拶の大切さ等の指導を継続し、励行を促進する
 - (C) より良い教育共同体作りに努める

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

7. 自己評価アンケート結果と分析	4. 学校関係者評価委員会からの意見
<p><評価が相対的に高かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○この幼稚園に通わせて満足している ○教職員は気持ちの良い挨拶を行っている ○幼稚園の教育目標に共感できる ○子どもは幼稚園に行くのを楽しみにしている ○行事が楽しい ○緊急時に情報を適切に伝えている (すべて満足度93%以上) <p><評価が相対的に低かった項目></p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの応用力が養われている ○自分で判断し行動できる力が培われている ○小学校と連携した活動を行っている 	<p>学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会（保護者）・各学校種管理職・評議員（学識経験者）により構成されている。2019年度学校評価に関する検討は2020年3月31日（火）に行われた。</p> <p><意見まとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○全般について 「幼稚園を選ぶ上で、重視した点に関する結果」について「教育方針」「雰囲気」との回答が多くなっており、園は保護者の期待通りの満足が得られていると考える。「幼稚園に期待すること」も「思いやり」「感謝」「あいさつやマナー」と、これまでと同じ傾向であり、保護者が強く求める要素が満たされている。ただ、幼小中高が同じ敷地内にあるという利点を活かすため、年長時に小学校へ上がるあこがれのような実践教育が1つでもあればと考える。 ○教育内容とその効果について アンケートにおいて応用力や自己判断力、感性についての項目がやや低くなっているものの、実際の活動において教員は園児に考える時間とゆとりを与えており、園児の個性や表現、健康を見守ってくれていると感じている。 ○目標の共通理解について 平均的に保護者の幼稚園に対する満足度は上がっていると感じられるものの、教育目標が明示されていないと感じるケースが多いようなので、幼稚園全体で共通認識を持つことが重要だ。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (2019年12月実施の学校評価アンケート結果)	自己評価
1 カトリック・ボスコ学校をの維持精神による	ドン・ボスコ、マリア・マザレロについて学びを深める	ア)キリスト教の精神に基づく教育活動を実践し、拡充する。	設問「保護者に対してキリスト教主義に基づく教育方針の説明をわかりやすく行っている」のA・B評価が80%以上。	ア)A・B評価 85.3%。全ての教育活動及び、園内外の研修の機会を用い、カトリックミッションスクールの教員としての意識改革に繋がった。 (○)
		イ)子どもたち自身が愛されていると実感できるよう、あらゆる教育活動を通して、愛情深く見守ると共に、保護者アンケートの結果を共有する。	設問「教育方針に沿った教育を行っている」のA・B評価が90%以上。	イ)A・B評価 90.2%。概ね、年度当初の目標を達成できたが、保護者との信頼関係を更に強固なものとしていく必要がある。 (△)
2 全「園児・児童の安全管理を徹底する」	安全教育を実施し、安全・安心のための教育環境整備を行う	ア)防災・減災・防犯の知識を深める為の有効な訓練や研修(救命救急等)を実施し、交通安全指導を実施する。	設問「子ども達に安全教育を行っている」のA・B評価が90%以上。	ア)A・B評価 91.4%。前例主義にとらわれることなく、あらゆる災害や犯罪に対応すべく種々の安全教育の充実を図った。 (○)
		イ)危険箇所の点検と改修等、教育環境を定期的に点検し、改善する。	設問「園の施設・設備は、安全管理が行き届いている」のA・B評価が90%以上。	イ)A・B評価 91.4%。危険箇所の点検・改修に加え、職員研修や講習の機会を増設し、ソフト面でも充実させた。 (○)
3 『良心的な教職員』を育成する	教職員の資質向上を目指した研修を実施する	ア)教育者としての意識向上とスキルアップを図る。	設問「教員の心配りが行き届いている」のA・B評価が80%以上。	ア)A・B評価 85.3%。教員の資質向上を図るべく、園内研修についてはより深化充実してきたが、園外研修の機会をさらに増やす必要がある。 (△)
		イ)教員相互の円滑な人間関係作りと連帯感に基づく協働意識を醸成する。	設問「教職員は、協力し合って保育を行っている」のA・B評価が80%以上。	イ)A・B評価 90.2%。まだまだ個々の力量に頼る場面が多々あり協働意識を深める必要がある。 (△)
		ウ)日常のかつタイムリーな情報交換を行う。	(同上)	ウ)毎日の打合せにとどまらず、タイムリーで迅速な情報交換に努め、共有を図った。 (○)

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
4 校種間、 兄妹校間 の連携を強化	他校種の児童・生徒との交流の機会を広く設ける	ア) 中高生の保育体験実習の場を提供する。	-	ア) 毎年夏休みに保育実習の場を設け、交流を図ってきたが、将来の進学希望先としての選択肢につながるようさらに深める方策が必要である。 (△)
		イ) 小学校児童との交流の機会や場の設定を工夫する。	設問「園は、小学校と連携した活動を行っている」のA・B評価が60%以上。	イ) A・B評価 48.8%。小学校1年生との交流の場を持つことが出来たが、さらに拡充していくよう、検討していく。 (△)
5 自然に挨拶が交わされる学園にする	教職員が率先して挨拶を励行する	ア) 「紹介ブック」を積極的に活用し、全教職員間で気持ちのこもった挨拶を励行し、交流を図る。	設問「教職員は、気持ちの良い挨拶を行っている」のA・B評価が85%以上。	ア) A・B評価 96.3%。対外的な場面や来訪者に対しても気持ちよく対応することができている。(○)
		イ) モラルやコンプライアンスに関する研修を行う。	設問「教職員は、子どもの良さや努力を公平に評価している」のA・B評価が80%以上。	イ) A・B評価 87.7%。行事ごとに実施している保護者へのアンケート調査からも、満足度の高さが実感できる。(○)
		ウ) 常に親しみを持って交わり、保育者自身が範を示す。	設問「教職員は、子どもにあたたかい態度で接し、信頼関係を築いている」のA・B評価が80%以上。	ウ) A・B評価 92.6%。日常保育の中のみならず、常々園児の動向に注意し、個性を伸ばすよう支援を継続している。(○)
		エ) 「親の集い」や各集会等を通して意志の疎通を図るとともに連帯意識を高める。	設問「園には、子どもに関する相談が気軽にできる」のA・B評価が80%以上。	エ) A・B評価 76.5%。子どもを乗せて走る車の両輪の如く、園と保護者の信頼関係の構築は不可欠との意識を常に持っていることが最重要である。 (△)